

つながりサポート型支援事業【岐阜市】

地域の実情と課題

【地域の実情】

○コロナ禍において、生活や仕事、子育てや介護に関する女性の困難や不安が深刻な状況となっているが、相談窓口を設けていてもそこまで声が届けられない等、孤独・孤立を抱える女性が増加している。

【課題】

- 社会との絆・つながりを回復。
- 居場所の提供、個別相談などのきめ細かな支援の実施。

目的・目標

- 孤独・孤立を抱える女性の居場所の提供。《居場所づくり》
 - 相談・同行支援・心理カウンセリング事業。女性用品の配布。《個別支援》
 - 継続して支援できるネットワークの構築。《女性支援ネットワークの形成》
- 【事業目標】居場所に訪問した人数 900人⇒1,623人【達成】
NPO等が連携し相談支援を行った件数 30件⇒21件【未達成】
ピアサポート参加者へのアンケートで「不安が和らいだ」と回答した割合 70%⇒99% 【達成】

事業の特徴

様々な困難を抱える女の子、女性への相談業務の実施

【個別相談】

対面、電話だけではなく、居場所へ訪れることが困難な方にも対応するためメールでの相談も実施。

【同行支援】

要支援者に同行し、課題解決に適切な支援機関へ繋ぐ。

連携団体

【岐阜市男女共同参画推進審議会】

岐阜商工会議所、岐阜青年会議所、岐阜市自治会連絡協議会、女性団体、人権擁護委員協議会、子育て支援団体、厚生労働省岐阜労働局、岐阜市小中学校長会、岐阜市議会、連合岐阜・岐阜地域協議会、岐阜大学、朝日大学

【委託先・再委託先】

岐阜市女性センター、(特非)あゆみだした女性と子どもの会、(一社)サステイナブル・サポート、(一社)よりそいネットワークぎふ

事業の効果

○女性が抱える悩みは複合的なものが多く、活動分野の様々な支援団体と連携したことで、女性の悩みに幅広く対応できた。また、支援団体と庁内関係部局の職員とのネットワーク会議は、現場の声を届けることができ、包括的に支援するためには大変有効であった。

ピアサポート参加者へのアンケートで「不安が和らいだ」と回答した割合⇒99%

今後の課題

コロナ禍で鮮明となった女性の孤独・孤立に対する支援。

- ①安心して相談でき、個々のニーズに寄り添った支援につなぐ相談窓口の、継承、充実。
- ②福祉、経済分野と連携し、「具体的対応」ができるような取り組み。

◆女性の居場所づくり

不安を抱える女性たちが互いに支えあう(ピアサポート)ができる居場所づくり

⇒・市内3ヶ所に「あんしんつながりステーション」を開設。

居場所へ訪れた女性へ女性用品等を配布したり、話を聞いたりする支援員を、各居場所へ1名配置

※月～日曜日の中で、必ずどこかのステーションが開設しているように配慮。

・電子メール相談:24件 ・ピアサポート(開催日数)岐阜駅東:10日 柳ヶ瀬東:10日 長良:12日

・岐阜駅東の環境整備(キッズスペースの設置など)

【開設期間】令和3年9月1日～令和4年2月28日

【開設場所】岐阜駅東・柳ヶ瀬東・長良

【開設日時】(岐阜駅東)

火～土曜日 10:00～16:00

(柳ヶ瀬東)

火・水・金曜日 10:00～15:00

(長良)

月・水・日曜日 11:00～16:00

【来所者数】延べ1,623人

あんしんつながりステーション岐阜駅東



あんしんつながりステーション柳ヶ瀬東



あんしんつながりステーション長良



◆支援が必要な女性(要支援者)への個別支援

・相談事業

⇒要支援者に寄り添い、話を聴き、課題を明らかにする個別相談(面談)を行う相談員を、各居場所に1人配置:延269人/日(283件)

・同行支援事業

⇒要支援者に同行し、課題解決に適切な支援機関(行政、NPO等)につなぐ。
個別相談:延465件(うち面接相談:延283件、電話相談:延158件、メール相談:延24件)

・心理カウンセリング事業

⇒精神的に不安定となった女性に対し、公認心理士によるカウンセリングや自己肯定感を高めるプログラムを実施。

【公認心理士によるカウンセリング事業】:延40人

【女性支援プログラム(DV被害者を対象とした、自己肯定感を高め、将来の自立を促すためのプログラム)】:6回

・アウトリーチ支援

⇒同行支援:7回 訪問:21回

相談の様子



プログラムチラシ

女性支援プログラム

DV被害女性のための支援プログラム

プログラムの目的「女性がチカラをつける」

どんな理由があっても、暴力をふるわれてよいはずありません。これは被害女性たちが自分自身の人生を取り戻すためのプログラムです。被害者支援のひとつとして2022年より実施している支援プログラムを基に開発したものです。



チカラとは・・・DVを認識するチカラ
DVをさけても被害されなければ
DVを繰り返すチカラ
自分で決断して行動を起こすチカラ
自分らしく生きるチカラ

加害者に怒りや不安を伝えることができるチカラ
自分を尊重し、必要に応じて適切な助けを「学び」ます。



参加対象者

- ★ DVでつらい思いを抱えている女性(身体への暴力だけでなくDVではありません)
- ★ もしかしてもの力がDV加害者ではないかと悩んでいる女性
- ★ 夫にDVの経験はあるけれど、まだ離婚・別居を決定していない女性
- ★ 夫にDVの経験はあるけれど、何となく少し気になって帰ってきてみたいと思えている女性
- ★ 離婚・別居したけれど、元来と子どもの親会交流の困難を抱えている女性
- ★ 離婚・別居したけれど、子どもを被害者にも加害者にもさせたくない女性

参加無料 申込不要 開催日時 ※少人数で開催します

〈毎月第3火曜日〉 時間:10時30分~12時
R3年10月19日・11月16日・12月21日
R4年1月18日・2月15日

事業の概要

◆本事業の周知

不安を抱える女性に対しホームページ、啓発チラシ・カード等の配布活動等、多様な手段を活用して相談窓口の存在を周知・啓発。

- ・ホームページ作成(パソコン用、スマートフォン用)
- ・啓発チラシ・カード:各10,000枚作成、配布
- ・女性用品(生理用品、ボディークリーム、紙マスクのセット)
:5,000個配布
- ※ステーション、女性を支援する団体等、市内及び近郊大学等と連携し配布
- ・啓発活動(大型SC 2か所及び、JR岐阜駅で2日間街頭啓発実施、スーパーマーケット2か所にチラシの配架)
- ・生活資金に特に困窮する女性の緊急雇用
:21人、延515時間実施
- ・フードバンクの設置
(個人、企業から寄付をいただき、岐阜駅東、長良の2か所で延197日実施)
- ・新聞等報道による周知
新聞社5社及び、地元フリーペーパーで掲載

岐阜市HP



啓発チラシカード



SNS投稿



街頭配布の様子



女性用品セット



◆つながりサポート型女性支援ネットワークの形成

- ・つながりサポート女性支援ネットワーク会議の開催（月1回）
⇒要支援者を支援する様々な団体が横の連携を強化し、より効果的な支援につなげるため、NPO等の枠を越えたネットワークを形成。

ネットワーク会議の様子



・事業報告書の作成

- ⇒事業での活動実績、得られた成果、不安を抱える女性たちの傾向と対策、今後の展望などを取りまとめた、事業報告書を作成。